

注意点1

理論

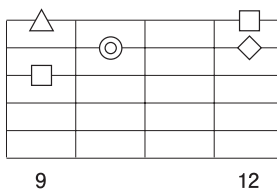
2弦上に1音追加する
応用トライアド・ポジション

メイン・フレーズの各小節1&2拍目に登場する“3弦1音・2弦2音・1弦1音”というパターンは、ヌーノがオルタネイトの弦移動プレイで使用することがあるフレージングだ。これは3本弦スウィープのトライアド・ポジションを土台に、さらに2弦上でコード・トーンを1音加えている【註】。1&4小節目のAコードでは、2弦12フレットのB音=9th音を加えているが(図1)、コードに9th音を加えると、メジャー・コードでは爽やかさを、マイナー・コードでは哀愁感を増やすことができるのだ。実際の演奏時には、アウトサイド・ピッキング主体になるので、弦を正確にまたいでピッキングするように心掛けよう。

図1 3本弦スウィープを土台にした応用ポジション

◎トニック=A音 △3rd音=C#音 □5th音 ◇9th音=B音

・メイン・フレーズ1小節目



3本弦スウィープのトライアド・ポジションに、2弦上で9th音を加えている。

注意点2

左手

人差指の3本弦セーハはNG!
細かく弦移動せよ

メイン・フレーズのような細かく弦移動を行なうフレーズでは、右手だけではなく左手の移動もポイントになるが、ここでは人差指のセーハを使用しないようにしましょう。1小節目1&2拍目では、3~1弦9フレットをセーハしてしまうと、コード音が鳴り続けるだけではなく、余弦のミュートがしづらくなるのだ(写真①&②)。したがって、人差指は弦移動をキッチリ行ない、1弦の押弦時には先端を2弦に触れてミュートするように心掛けよう(写真③&④)。TAB譜だけを見て、安易に3本弦をセーハしているようでは、プレイの本心を理解していないビギナーだ。ノイズの少ない演奏を実現するため、人差指を的確に動かすべし!



1小節目1&2拍目。人差指で9fをセーハしてしまうと...



余弦のミュートがしづらいので、ノイズが増える。



小指による2弦12fの時点で、人差指を弦移動させて...



1弦9fのみを押弦しよう。2弦のミュートも忘れずに!

~コラム13~

教官の戯れ言

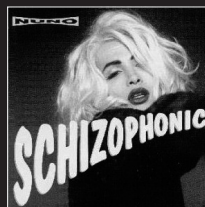
ヌーノと言ったら、やはりメタルにファンクの要素を取り入れた代表ギタリストになるだろう。デビュー当時、著者のまわりではそれまで“リフではダウン命!”と言っていた連中が、急にオルタネイトでカッティングを弾き始めたぐらい、彼の影響力は大きかった。しかし、みんな彼のようにグルーヴィなプレイができず、カッティングの難しさを痛感していたね。彼はソロ・プレイもテクニカルで、普通のギタリストが取り入れないテンション音を加えたり、変則的なポジションも使用している。純粋なメタル系とはひと味違うセンスの持ち主で音楽性も幅広いギタリストだね。

著者・小林信一、かく語りき
ヌーノ・ベッテンコート編



エクストリーム
『ボルノグラフィティ』

バンドの人気を不動のものにした2枚目。グルーヴィなリフ〜テクニカルなソロまで、ファンク・メタルの神髄を堪能できる。



ヌーノ
『スキゾフォニック』

メロディアスかつアグレッシブな楽曲が満載の1stソロ作。自らボーカルを取り、多彩なプレイを聴かせる意欲作になっている。

【1音加えている】メイン・フレーズ2&3小節目で解説すると、2小節目のC#7では2弦12f=7th音(B音)、3小節目のDでは2弦9f=#4th音(G#音)が加えられている。